

脳科学研究所設立 10 周年に思うこと

“ALL 玉川” による『若手研究者人材育成』



学術研究所 特任シニアスタッフ
落合博美

平成 15 年 4 月、学術研究所に“学術研究”を専門に推進する事務部門として現在の「研究促進室」が設置されました。この設置と同時に就職部から学内異動となり、今年で一筋 14 年目を迎えています。

14 年間の長きにわたり研究促進室で共に歩んだ“ALL 玉川”による『若手研究者人材育成』を紹介させていただきます。

ポスドク（嘱託研究員）83 名

『全人的人間科学プログラム』（研究拠点リーダー：塚田稔教授）が、平成 14 年度文部科学省 21 世紀 COE プログラムに採択されました。“玉川大学脳科学研究”に新たな 1 ページが綴られた瞬間でした。

21 世紀 COE プログラムは、「学長を中心としたマネジメント体制の下での、大学の将来構想等」が公募条件とされたものであり、“ALL 玉川”による申請プログラムでした。

そして、採択翌年の平成 15 年度に当時の人事課長の特段のご理解により、玉川大学に「本格的なポスドク制度」が導入されました。ポスドク元年として記憶に新しい記念すべき年でした。平成 28 年度までのポスドク採用が、14 年間で 83 名となっています。

平成 15 年度のポスドク採用は 3 名。奥田次郎（現在、京都産業大学准教授）、寺前順之介（大阪大学大学院准教授）、そして小島比呂志（玉川大学工学部教授）です。

平成 16 年度のポスドク採用は 5 名。須田祥世（玉川大学リベラルアーツ学部教授）、福島康弘（川崎医療福祉大学准教授）、坪泰宏（立命館大学准教授）、井出吉紀（国立食品衛生研究所嘱託研究員）、そして松田哲也（玉川大学脳科学研究所教授）も本学のポスドク出身です。

現在、本学に在籍している平成 17 年度以降のポスドク出身者は、平成 17 年度鮫島和行（脳科学研究所教授）、平成 19 年度松元健二（脳科学研究所教授）、原野健一（学術研究所准教授）です。前述の小島比呂志、須田祥世、松田哲也を加えた総勢 6 名は、現在のテニユア制度に該当し、ポスドク総勢 83 名に対して、全体の 7.2%となっています。

83 名の内訳は、男性 54 名（65.1%）、女性 29 名（34.9%）。

平成 25 年 3 月 31 日現在の総務省による科学技術研究調査の結果では、我が国の女性研究者数は 12 万 7800 人であり、研究者全体に占める女性の割合は、14.4%で過去最高を更新されたとしています。第 4 期

科学技術基本計画に掲げられている期待される女性研究者の採用割合「自然科学系全体としては25%を早期に達成するとともに、更に30%まで高めることを目指す」とされていることをみても、本学の34.9%は国の指針に対応するバランスの取れた人材育成といえるでしょう。

加えて、脳科学研究所には大学院生や日本学術振興会による特別研究員も毎年多数在籍しており、ここでも国内トップクラスの人材育成が進められていると自負しています。

脳科学トレーニングコースと脳科学リトリート

いずれも平成23年度から始まり、今年で第6回を迎えます。

“脳科学トレーニングコースの思い出”は、その前年に理化学研究所から就任いただいた磯村宜和教授が計画書を持参して研究促進室に足を運んでくださった時、「1年で終わるのでは承認できない。5年継続を見据えたものであれば予算を付けましょう」とお話ししたことを昨日のことに覚えています。今年で6年目、約束を守っていただいただけでなく、“脳科学トレーニングコース”は今や脳科学研究所の伝統の一つになりました。“脳科学リトリート”も、また同様に…。

現在、研究センター棟3階で日々研究に励んでいる若手研究者の相馬祥吾君、松森嘉織好君は、第1回の脳科学トレーニングコースに参加した応募者90名から選ばれた26名のうちの2名です。お二人とも、脳科学トレーニングコースに参加され、「いつかこの研究所で研究を」の思いが実現され、今日に至っているのです。研究促進室から見ても本当にうれしい限りです。

一枚の写真



上の写真は、今も大切にしている“一枚の写真”です。撮影日は、平成16年7月14日。

この年の5月18日に、21世紀COEプログラムの中継ヒヤリングがあり、「現地調査が必要」と条件付きの判定となりました。この写真は、現地調査に伴う緊急の打合せ会の開始直前の瞬間です。21世紀COEプログラムの研究拠点リーダーである塚田稔教授を中心に、研究分担者、ポスドク、大学院博士課程学生までが参加し現地調査の準備をしました。結果、平成16年8月19日の「現地調査」においては、“ALL玉川”による研究体制・施設・組織等全てにおいて高い評価を得ることに繋がっています。これが、平成20年度採択のグローバルCOEプログラムにも繋がった、“ALL玉川”の楽しい決起集会の一コマであったと、今でも嬉しく懐かしい写真です。